

震災5年、観光で東北復興を

◀ 福島県

特集 震災5年～新たな東北観光創造へ

沿岸3県の観光、現状と課題

現地
ルポ

未曾有の東日本大震災から間もな5年。地震と津波による直接の被害、また原発事故による風評被害を受けた東北の温泉・観光地は、関係者の懸命の努力でかつてのいきわいを徐々に取り戻しつつある。岩手、宮城、福島3県の温泉・観光地の現状を現地取材によりレポートする。

岩手県

宮古の毛ガニは少し小と毛ガニが売れていく。ぶりが、身は引き締まり、湯気を上げる毛ガニ汁の甘みが強い。2月21日、大鍋にも行列が続く。岩手県宮古市の魚市場。沿岸地域の観光は、冬場特設会場で開かれた「毛ガニ祭り」は、冬の味覚を求める人々にぎわった。毛ガニ祭りは2003年、観光協会が水産業者と協力して開催された。内者などの協力を得て、毛ガニ祭りは、冬の味覚を求める人々にぎわった。毛ガニ祭りは2003年、観光協会が水産業者と協力して開催された。



旬を迎えた毛ガニを水産業者らが売り込む
(第14回宮古毛ガニ祭り、2月21日)



毛ガニ祭りであいさつする宮古観光文化交流協会の澤田克司会長



来場者でにぎわう毛ガニ祭り会場



人気の毛ガニの一本釣りコーナー



浄土ヶ浜の美しい景観を堪能できる遊覧船



漁協ビルから見た宮古市の中心市街地

宮古の毛ガニは少し小と毛ガニが売れていく。ぶりが、身は引き締まり、湯気を上げる毛ガニ汁の甘みが強い。2月21日、大鍋にも行列が続く。岩手県宮古市の魚市場。沿岸地域の観光は、冬場特設会場で開かれた「毛ガニ祭り」は、冬の味覚を求める人々にぎわった。毛ガニ祭りは2003年、観光協会が水産業者と協力して開催された。内者などの協力を得て、毛ガニ祭りは、冬の味覚を求める人々にぎわった。毛ガニ祭りは2003年、観光協会が水産業者と協力して開催された。

観光の力で地域資源をフル活用
宮古毛ガニ祭りに活気あふれる

ンマ、冬のアワビなどのとり、前年とほぼ同数でともえるように始め評判が高い。その中で毛ガニは、県内でも内陸部の外を発地とする旅行会社にも、宮古港海産物の歴史、黒森神楽などの文化といった誇れる資源がある。毛ガニ祭りの回数を重ねることで、観光客を乗せて港まわってきた。震災以降は「復興祭」とも称し、地域の産業復興への思いを込めた。今年、毛ガニ祭りは冬の観光客の来場者数は地元客や観光客など約1万7千人に上った。宮古市観光協会長の澤田克司は「毛ガニ祭りは冬の観光客の来場者数は地元客や観光客など約1万7千人に上った。宮古市観光協会長の澤田克司は「毛ガニ祭りは冬の観光客の来場者数は地元客や観光客など約1万7千人に上った。宮古市観光協会長の澤田克司は」



浄土ヶ浜パークホテルの関野彦副社長兼総支配人

同ホテルの関野彦副社長兼総支配人は「復興支援や防災学習の一方で、観光客の来場者数は地元客や観光客など約1万7千人に上った。宮古市観光協会長の澤田克司は「毛ガニ祭りは冬の観光客の来場者数は地元客や観光客など約1万7千人に上った。宮古市観光協会長の澤田克司は」



太平洋を望む浄土ヶ浜パークホテル

福島県

いわき湯本温泉(福島県いわき市)の玄関口、JR湯本駅が昨年3月、福島デスティネーションキャンペーンの開催に合わせてリニューアルされた。温泉の旅館経営者は「観光客の入りは震災前と変わらない」と述べている。待合室には温泉熱を利用した床暖房を設置した。ちよとしたインポートも見えるスペースとし、今後、さまざまなイベントを仕掛けていきたい」と、いわき湯本温泉旅館協同組合の草野昭男理事長(つお昭)は語る。時を同じくして、旅館組合の事務所も駅前に新築移転した。駅や事務所の周辺には、映画「フラガール」の舞台としてのイメージを創出するため、南国の木、ヤシの植栽も。足湯は駅前にあり、一帯は観光客や地元住民らの憩いの場となっ



いわき湯本温泉旅館協同組合・草野昭男理事長



J R湯本駅構内に開設された足湯



仕事で福島を訪れたというエジプト人のタレント、イサム・サードさん(右)。「福島は自然がたくさんでいいところ。原発も気にならないですよ」



スパリゾートハワイアンズ・村田知博支配人



フラガールによる人気のショー



ファイアーナイフダンスもショーの新たな柱に

原発事故の風評被害払しょくへ
「フラ」をテーマに町づくり進む

「じゃんがら」のチームを作り、イベントなどで精力的に活動している。だが、賠償ありきで温泉地づくりに挑戦しなければならぬ。温泉の旅館経営者は「観光客の入りは震災前と変わらない」と述べている。待合室には温泉熱を利用した床暖房を設置した。ちよとしたインポートも見えるスペースとし、今後、さまざまなイベントを仕掛けていきたい」と、いわき湯本温泉旅館協同組合の草野昭男理事長(つお昭)は語る。時を同じくして、旅館組合の事務所も駅前に新築移転した。駅や事務所の周辺には、映画「フラガール」の舞台としてのイメージを創出するため、南国の木、ヤシの植栽も。足湯は駅前にあり、一帯は観光客や地元住民らの憩いの場となっ

村としては、観光入込客数が延べ約4.2万人で、震災前の8割程度にとどまっている。観光復興について、宮古観光文化交流協会の澤田会長は、震災遺構「たろう観光ホテル」などを活用し、「修学旅行をはじめとする防災学習の受け入れ態勢を整備して誘致を強化したい。また、整備が進む三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路とともに、川崎近海汽船が宮古(室蘭・北海道)を結ぶフェリー航路の開設(18年春)を検討中。交流人口の持続的な拡大に生かしていく」と意気込む。

